

スマートフォン活用 単身生活者向けアプリ

# ワンタッチで緊急通報



ファミリーセーフティーを開発したサンライズ・エー・イーの(左から)黒川龍二開発部長、池澤昭博社長、市川昇第一開発課長

## サンライズ・エー・イー(八戸)開発

八戸市のサンライズ・エー・イー(池澤昭博社長)は15日までに、単身赴任者や一人暮らしの中高齢者向けに、高性能携帯電話の「スマートフォン」を活用した緊急通報用のアプリケーショソフ「ファミリーセーフティー」を開発した。ワンタッチでの緊急通報や位置情報の提供ができる。

米ケーゲルの携帯電「アンドロイド」に対応した基本ソフト「アンドロイド」し、今年7〜8月ごろ

から有料ダウンロードを開始する考え。同社は「東北ではアンドロイド向けの技術開発は少なく、新しいことに挑戦したい」と意気込む。同社は情報通信システムやソフトウェアの開発、開発のほか、運合、自動的に緊急通報

用の保守を展開。他社からの請け負い開発がメインだが、同アプリは21あおもり産業総合支援センターの「あおもり元気企業チャレンジ助成事業」の助成金を利用し、初の自社製品として開発した。

同アプリには、体の異常など緊急時に携帯電話をワンタッチ操作することで通報する「手動緊急通報機能」と、あらかじめ設定した時刻までに体の異常などで解除操作を行うことができる。緊急連絡先の携帯電話では、衛星利用測位

システム(GPS)により、通報者の場所を住所や地図で確認できる仕組みだ。池澤社長は「自分が

単身赴任をしているため思い付いた」と開発のきっかけを説明。「これからスマートフォンの利用者は増加するので、ビジネスチャンスととらえたい」と話している。

## デーリー東北 朝刊(2010年4月16日 4面)掲載

この画像は当該ページに限ってデーリー東北新聞社が利用を許諾したものです。